

2026年度 北海道支部視察研修会 実施報告書（WEB 掲示）

2026年度北海道支部調査研修事業の一環として、「ケーブル技術ショー2026」他視察研修会を実施した。

1・ 視察先

- ① ケーブル技術ショー2026 会場：東京国際フォーラム
- ② 北海道支部、東北支部、中部支部、九州支部合同情報交換会
- ③ ファーウェイ・ジャパン交流体験センター

2・ 研修期間 2026年 7月23日 ～ 24日（2日間）

3・ 参加者 会員6社（9名）

① 7月23日（木）14：00～「ケーブル技術ショー2026」視察

北海道支部では、2018年以来3回目の「ケーブル技術ショー2026」の視察研修を実施致しました。技術展示会には、100を超える事業者・団体の出展があり、「トータルソリューションゾーン」「テクノロジーゾーン」「地域DX・地域共創ゾーン」に加え、新事業を後押しする「トライアルブース」を設け、地域課題の解決に資する最新技術、ソリューションサービスを幅広く紹介しておりました。

主催者テーマ展示コーナーでは、従来の放送サービスに加え、地域DX、防災、ローカル5G、AI活用、クラウド化、IPネットワーク化など、ケーブル事業者と自治体の連携による次世代への取り組みが紹介されておりました。

《参加者の感想、印象に残った事》

○本展示会では、従来の放送サービスに加え、地域DX、防災、ローカル5G、AI活用、クラウド化、IPネットワーク化など、ケーブルテレビ事業者の新たな事業領域に関する展示が多数見られた。地域課題の解決を目的としたソリューション提案が中心となっており、単なる放送インフラから地域プラットフォーム事業者への転換が強く意識された内容であった。

自治体向けの地域情報配信、防災通知、見守りサービス、デジタル行政支援などのソリューションが多数展示されていて、特に地域プラットフォーム構築、防災情報の高度配信、デジタル田園都市構想への対応、高齢者支援サービスなどが重点テーマとなっていた。

近年の災害を背景に防災情報の多重配信、スマート防災テレビ、IP網活用型防災システム、自治体向け緊急情報配信に関する展示が目立った。ケーブルテレビ事業者の既存ネットワークを活用し、自治体と連携して住民への迅速な情報伝達を実現する提案が多く見られた。今回の展示内容から、ケーブルテレビ業界は以下の方向へ進展していると考えられる。

放送事業から地域DX事業へシフトしており、従来のテレビサービス中心のビジネスモデ

ルから、自治体・地域企業・住民をつなぐ地域プラットフォーム事業への転換が進んでいる。インフラ事業者としての価値向上として、災害対策、行政サービス、地域情報基盤の役割が強く求められている。

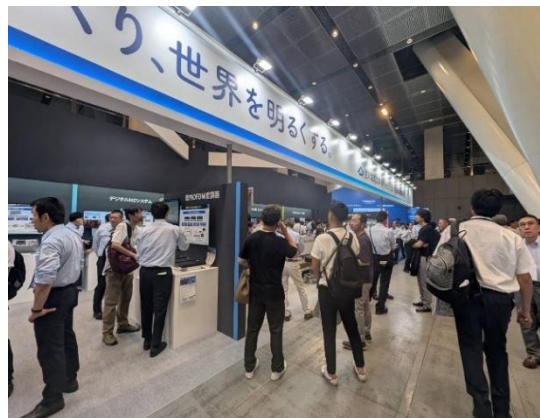
○展示会では特に普段自分はテレビ共聴設備の仕事に係ることが多いので、関連企業様のブースで技術や製品などを詳しくご説明いただき多くのことを学ばせていただきました。HFC 設備もしくは保守等の工事も継続されていくと思いますが、順次 FHHT 化に進んでおり、工事内容も光ファイバーの施工を中心としたものへ移行していくと感じました。施工業者としては、従来の技術を大事にしながらも光ファイバー施工技術やデジタル技術へも対応していく事が重要だと思いました。また、普段あまり接する事のない各企業様のブースで新しい技術や製品を見させていただき非常に貴重な経験をさせて頂きました。

○東京国際フォーラムにてケーブル技術ショー2026 を視察させていただきました。各ブースが予想以上に賑わいを見せていたのが印象的でした。特に印象に残ったのは従来の放送設備だけでなく、新しい技術を活用したシステムが数々のメーカー様から出展されていたこと。さらに既存の設備を保守・リニューアルするために必要な機器を出展されていたブースがいくつか見られたことに感銘を受けました。目新しい機器や聞きなれない知識などに尻込みすることなくこれからの業務に生かしていきたいと感じました。

○CATV 技術ショーでは自分たちの携わる業務の広さを改めて感じる事ができました。以前には大型だった機器も小型しており、アナログ放送時代の機器で無くなったと思っていた機器も様々なメーカー様から新たに製品が出されているなど知らないことばかりでした。地域に寄り添う会社となるためには自分たちが新しい製品や技術によく精通し、既設設備保全とリニューアルと両面からお客様のサポートができるようになりたいと思います。



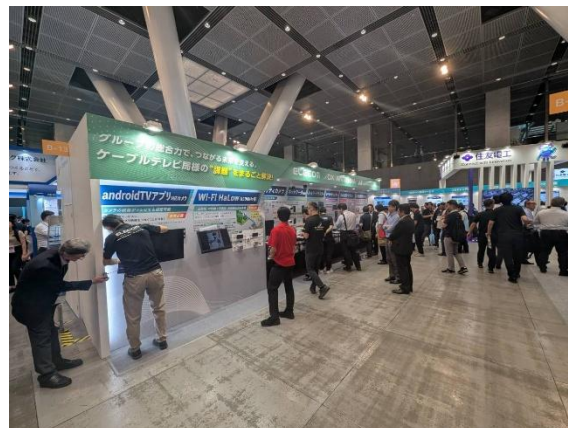
参加者集合写真



古河電気工業(株) ミハル通信(株)ブース



マスプロ電気(株)ブース



エレコム(株) DXアンテナ(株)ブース

7月23日(木) 17:00～ 日本CATV技術協会4支部合同情報交換会

北海道・東北・中部・九州の4支部合同の情報交換会を初めて開催し、20社31名が参加致しました。

交換会では、光ケーブルや電線類など資材価格の高騰や人員不足への対応策、さらにCATV業界の将来像といった経営面に関する幅広い意見を伺う事が出来ました。

また、地域特有の課題についても活発な議論が行われ、北海道・東北支部では雪害に伴う作業上の問題、中部・九州支部では熱中症対策など、厳しい気候条件に於ける屋外作業の安全管理について多くの意見交換がなされました。

《参加者の感想、印象に残った事》

○4支部による情報交換会は、北海道支部長の呼び掛けにより実現し、会場には名簿上31名の参加者が集まった。座席はくじ引きで決定されたため、同じ支部の参加者が固まることなく、各テーブルに分散して配置された。

私のテーブルには、東北支部および九州支部のメンバーが同席となった。地域による業務の進め方や課題、さらにはケーブル技術ショーの話題などで、大いに盛り上がった。

特に北日本では、雪に関する課題が多く、厳しい寒さの中での作業や、バケット車を使用できない場所・条件があることから、安全管理には十分な注意が必要との話があった。

一方、南日本では近年、熱中症対策に特に力を入れているとのことであった。「涼しい北海道がうらやましい」という声も聞かれたが、最近では北海道でも暑い日が増えていることを伝え、暑熱対策は全国共通の課題になりつつあるとの認識を共有することができた。

ケーブル技術ショーに関しては、「無電柱化に関する補助金制度が今年度から始まる」という話題をきっかけに、旭川管内では現在も木柱が残っており、工事に苦勞しているといった話で盛り上がった。

② 7月24日（金）10：00～ ファーウェイ・ジャパン交流体験センター見学

ファーウェイは、携帯電話のインフラストラクチャー整備に必要な通信機器を開発するベンダーとして、中華人民共和国広東省深圳市で設立された世界有数のICTソリューション・プロバイダー企業です。

今回の訪問では、法人ビジネス事業本部 中部支部の叶（ヨウ）支店長より法人向けソリューションに関する説明があり、データセンターや光通信設備に関してオール光医療ネットワーク、用途に応じた光ネットワークソリューションから、住宅用の蓄電ソリューションに至るまで、同社の多岐にわたる事業が紹介されました。

当施設は一般公開されておらず、招待を受けた企業のみが見学できる施設との事で、交渉にご尽力いただいた中部支部様に感謝申し上げます。

《参加者の感想、印象に残った事》

○交流体験センターでは、HrmonyOS 搭載端末製品をはじめ、バイタルデータ管理システム、Wi-Fi アクセスポイント、IP ネットワーク製品、光通信技術、バックアップストレージ、電源ソリューションなど、幅広い製品・ソリューションが展示されていました。各展示では、製品の特長や導入効果に加え、実際の導入事例を交えた説明が行われ、実運用を見据えた提案内容を確認することができました。

特に印象的であったのは、光通信技術に関する展示です。FTTR（Fiber to The Room）、FTTO（Fiber to the Office）、FTTM（Fiber to the Machine）、さらにはオール光医療ネットワークなど、用途に応じた光ネットワークソリューションが紹介されていました。

これらは、将来的な設備寿命の長期化や帯域拡張、データ伝送速度の向上を見据えた提案となっており、中長期的な設備投資の観点からも有効性が高いと感じました。

また、ハイブリッドタイプの光ケーブルや透明光ケーブルを活用した露出配線は、施工性や意匠性に優れており、既存施設への導入が容易である点も特徴的でした。

今後、映像の高精細化やIoT 機器の普及などにより、大容量・低遅延通信へのニーズはさらに高まることが想定されます。今回紹介された光通信技術は、通信設備の更新提案に加え、映像・放送設備と組み合わせた付加価値の高いソリューションとしても活用できる可能性があり、大変参考となる内容でした。

○ファーウェイ・ジャパン交流体験センターでは、最先端の技術を視察することができました。実際に見る IT 機器はアイデア次第では今まで以上に多種多様な業種に広がる可能性があると感じました。

また、施工性を高めるツールや光ファイバーなどの施工の面でも目新しく、斬新なアイデアのツールがあったことにも目を引かれました。



見学風景



見学風景



見学風景



集合写真